

シェラド・ゴカレ

S. D. Gokhale

ILCインド名誉理事長

「ボブ」といつも私たちは皆、親しみを込めて呼んでいた。私の記憶の中のボブは、いつも穏やかな話し方をし、優しい表情をしている。初めて彼に会ったときから、私は彼の人生に対する誠実な姿勢、彼の温かさや優しさに魅了されてきた。

ボブの知見の広さは世界中で知られているが、特に人口高齢化の分野で深い学識を有することが認められていた。高齢化分野での彼の貢献は明らかに世界一である。彼はいつまでも高齢化研究のパイオニアとして名を残すだろう。

2007年にお嬢さんとインドを訪問した際、私は彼らのデリーとアグラへの個人旅行に同行した。数々の史跡を巡りながら、私はそれぞれの史跡に反映されているインドの文化や伝統の微妙な違いについて説明した。それを子どものように強い興味を示して聞いていた彼に、とても親しみ

やすさを感じた。彼の研究者の部分が、彼の見るもの全てに対して好奇心を抱かせるのだと思う。彼は時に、普通は気に留めないような非常に細かい質問を私に投げかけた。

ボブは老年学および老年医学の分野の権威であり、高齢化の分野で活動している私たち全てに活力を与えてくれるシンボルだった。彼はその博識、知識、知恵、経験で広く尊敬されていた。

私たちが歳をとり、自分の人生に向き合うとき、誰もが彼の主張した原理に導かれることだろう。そういう意味で彼が残したものは私たち皆の大切な宝物である。

ボブ、あなたがこの世にいないことがとても惜しまれる。

ご冥福をお祈りいたします。



バトラー博士(右端)と筆者(左端)。中央は森岡理事長。